

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2020年夏)の結果

千葉経済センター

(公益財団法人 ひまわりベンチャー育成基金)

当センターでは、「2020年夏のボーナス予想」や「暮らし向き」について、千葉銀行40か店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

調査結果概要

1. ボーナス予想額：58万9,000円(前年夏比1万5,000円減少、同▲2.6%)

今夏のボーナス予想額は58万9,000円と、前年夏の受取額(回答者の実績)を1万5,000円下回った。予想伸び率は「▲2.6%」で、夏のボーナスとしては、8年ぶりの「減少」予想となった。

2. 暮らし向きアンケート調査について

暮らし向き(生活全般)については、半年前より「悪くなった」(14.1%)が「良くなった」(6.1%)を8.0%ポイント上回った。さらに、今後半年間の見通しについては、「悪くなりそう」(43.0%)が「良くなりそう」(4.3%)を38.7%ポイント上回る結果となった。新型コロナウイルスの感染拡大に、収束に向けた見通しの不透明さも加わって、これまで以上に、先行きに対する慎重な見方が強くなっている。

▽ ボーナスの増減予想では、「減りそう」が30.4%(昨夏10.7%)と昨夏比19.7%ポイント上昇の一方、「増えそう」が11.3%(同15.8%)と同4.5%ポイント低下した。

この結果、全体としては、「減りそう」が「増えそう」を19.1%ポイント上回るかたちとなった。「変わらない」は、昨夏の調査結果の73.5%から58.3%と低下をみている。

▽ ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養費」、3位「生活費の補填」で、以下「ローン等の返済」、「買い物」、「旅行・レジャー」、「交際費」の順となった。

▽ 貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.0%、「ゆうちょ(貯金)」6.7%、「投信・株式」4.5%、「社内預金」2.4%の順になっている。

▽ 貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」、4位「不時の備え」、「住宅関連資金」、以下「車の維持管理」、「耐久消費財」、「結婚資金」の順となっている。

▽ 購入希望主要品目(複数回答)では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位に挙げている。

調査結果

1. ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「減りそう」が30.4%（昨夏10.7%）と昨夏比19.7%ポイント上昇の一方、「増えそう」が11.3%（同15.8%）と同4.5%ポイント低下した。

この結果、全体としては、「減りそう」が「増えそう」を19.1%ポイント上回るかたちとなった。「変わらない」は、昨夏の調査結果の73.5%から58.3%と低下をみている。

増減予想を年齢階層別にみると、「減りそう」の割合は、各階層で大きく上昇しており、50歳以上では35.4%に達した。他方、「増えそう」の割合は、各階層で低下し、50歳以上では4.5%にとどまった。こうしたなか、「増えそう」が「減りそう」を上回ったのは、30歳未満のみとなり、30歳代以上の階層は、いずれも「減りそう」が「増えそう」を上回っている。増減予想については、これまでの調査でも、年齢層が高くなるにつれ、厳しくなる傾向にあったが、今回調査では、その傾向がより鮮明に表れたようにみられる（図表-1）。

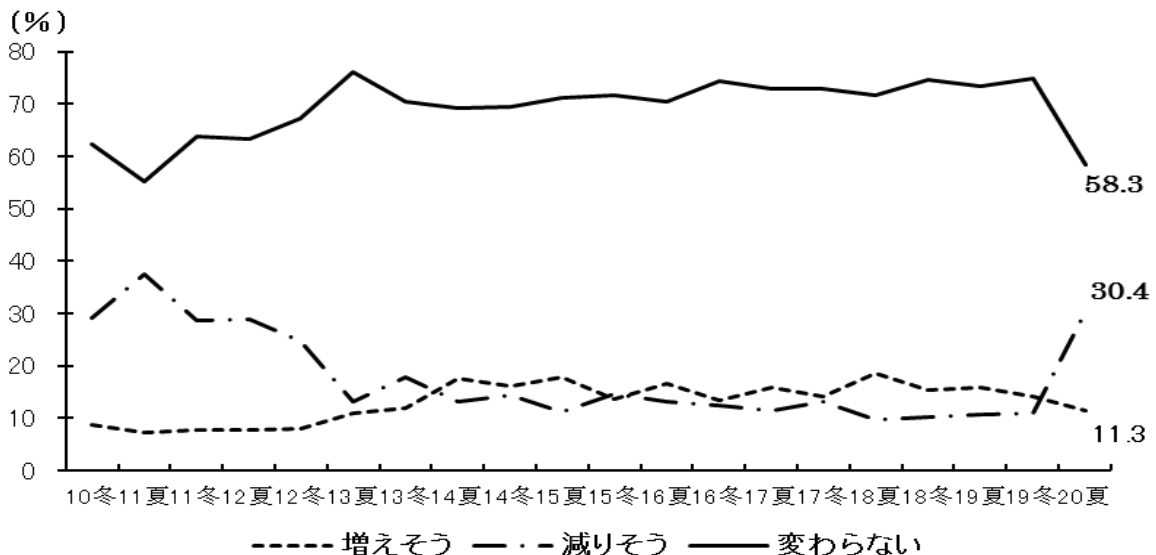
夏・冬のボーナス増減予想割合の推移は、（図表-2）のとおりである。

図表-1 ボーナスの増減予想（対前年比）

		（構成比、単位：%）		
		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	18夏	18.5	9.7	71.7
	19夏	15.8	10.7	73.5
	20夏	11.3	30.4	58.3
30歳未満	18夏	30.6	9.0	60.4
	19夏	31.0	9.5	59.5
	20夏	27.5	23.5	49.0
30歳代	18夏	21.5	6.0	72.5
	19夏	17.4	11.0	71.6
	20夏	15.7	29.1	55.2
40歳代	18夏	11.9	8.2	79.9
	19夏	13.1	10.2	76.7
	20夏	7.5	29.0	63.4
50歳以上	18夏	15.0	15.6	69.5
	19夏	8.8	11.9	79.3
	20夏	4.5	35.4	60.1

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2. ボーナスの予想額

今夏のボーナス予想額は58万9,000円と、前年夏の受取額（回答者の実績）を1万5,000円下回った。

予想伸び率は「▲2.6%」で、夏のボーナスとしては、2012年以來、8年ぶりの「減少」予想となっている。

年齢階層別では30歳未満のみが増加し、40歳代、50歳以上では、予想伸び率がマイナスとなっている。

また、勤務地別でみると、予想額は都内勤務の方が県内勤務者より31万8,000円高くなったが、予想伸び率については、県内、東京ともにマイナスとなるなか、都内勤務者が（▲5.7%）の方が、県内勤務者（▲1.8%）よりマイナス幅が大きくなっている（図表-3）。

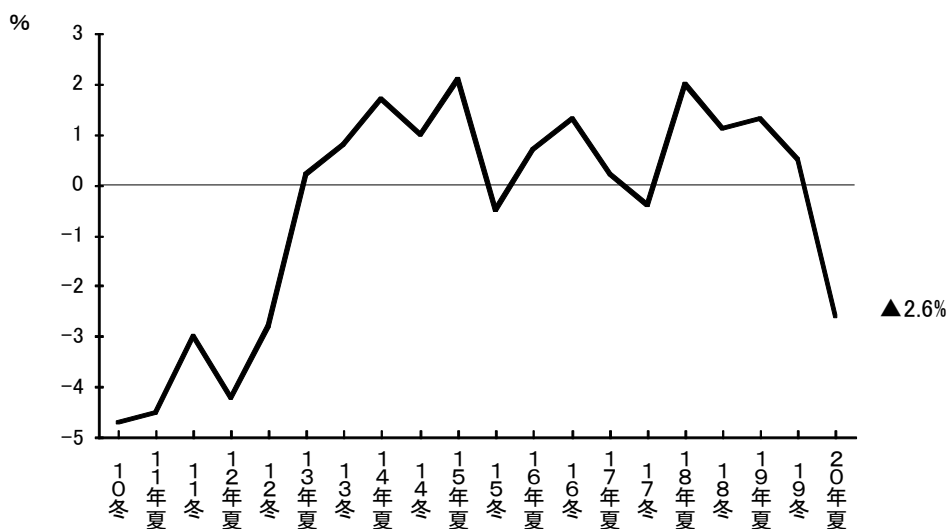
夏・冬のボーナス予想伸び率の推移は、（図表-4）のとおりである。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
全 体		58.9	▲ 2.6
30歳未満		44.2	8.6
30 歳 代		53.2	0.0
40 歳 代		55.7	▲ 3.6
50歳以上		71.8	▲ 6.0
勤務	県 内	53.7	▲ 1.8
地別	東 京	85.5	▲ 5.7

3. ボーナスの配分予定

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移(全体)



ボーナスの配分は、1位「貯蓄」、2位「教育・教養費」、3位「生活費の補填」。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(46.4%)、2位「教育・教養費」(9.9%)、3位「生活費の補填」(8.5%)で、以下「ローン等の返済」(7.9%)、「買い物」(7.2%)、「旅行・レジャー」(5.0%)、「交際費」(1.0%)の順となっている。

「貯蓄」は、経済情勢にかかわらず常にトップにあり、既婚・独身、男性・女性及び年齢階層別を問わず、堅実性を重視している様子が感じられる。また、「教育・教養費」への配分予定は既婚男性と40歳代、50歳以上で上位となった。

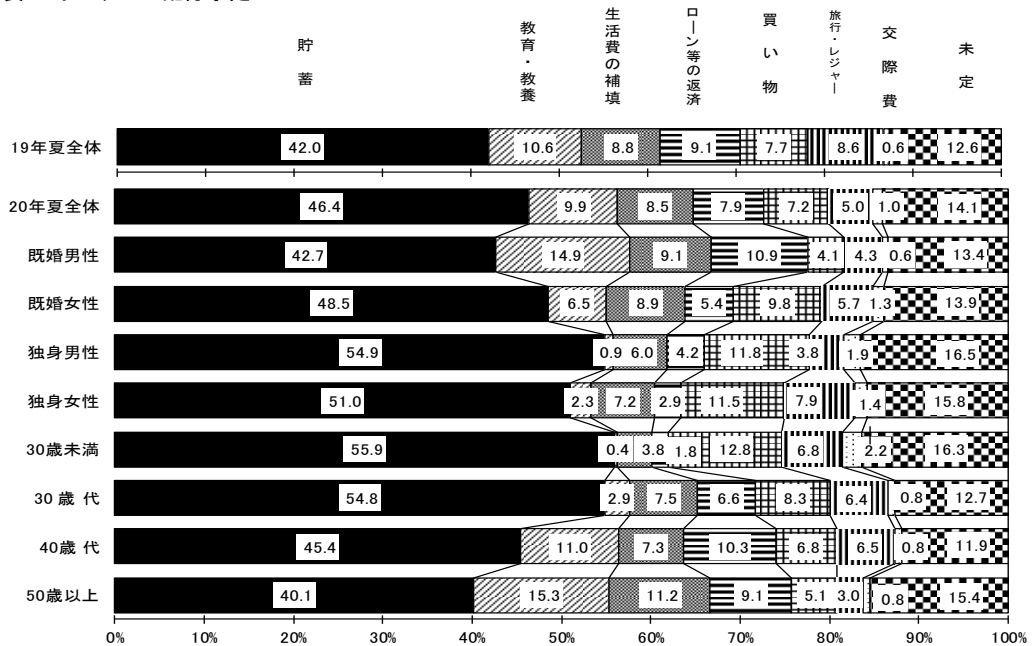
「貯蓄」については、既婚者より独身者の割合が高く、独身男性で54.9%、独身女性で51.0%となった。また、年齢階層別では、若い世代ほど「貯蓄」の割合が高く、特に30歳未満で55.9%、30歳代では54.8%と高くなっている。

「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて「買い物」のウエイトが高い。また、独身女性は、「旅行・レジャー」、既婚男性は「ローン等の返済」、「生活費の補填」も高くなっている。

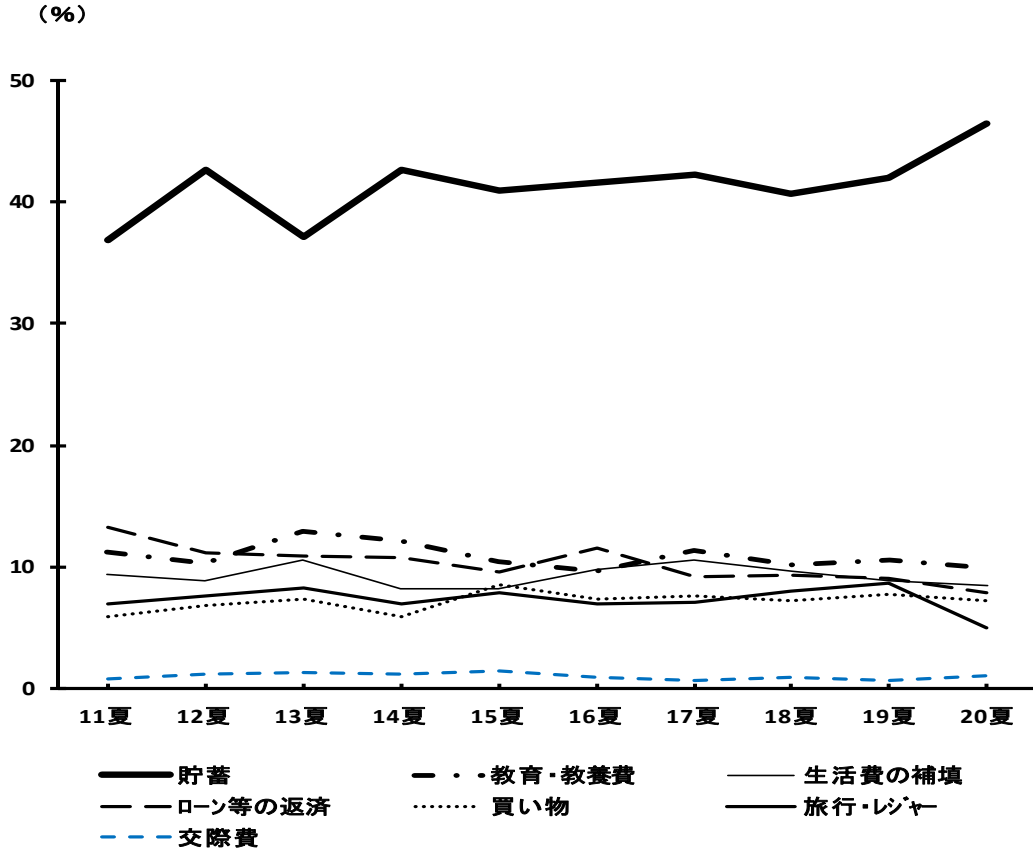
また、年齢階層別の特徴として、30歳未満と30歳代は「買い物」、40歳代は「教育・教養費」、「ローン等の返済」、50歳以上は「教育・教養費」、「生活費の補填」への配分割合が高くなっている(図表-5)。

ボーナスの配分予定の推移(夏季のみの時系列推移)は、(図表-6)のとおりである。

図表-5 ボーナスの配分予定



図表－6 ボーナスの配分予定の推移



4. 貯蓄の内訳

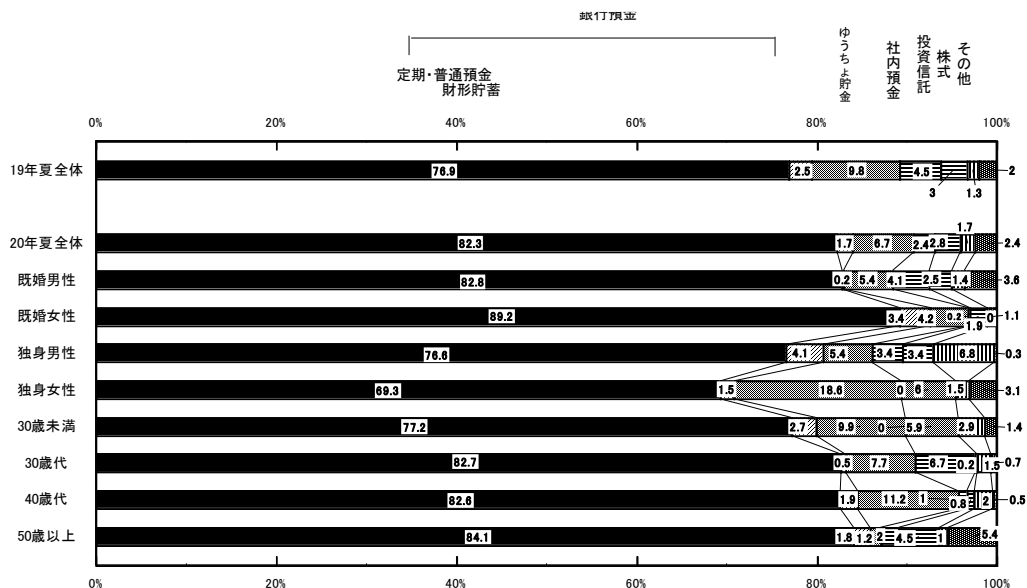
貯蓄の内訳は、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」84.0%、「ゆうちょ（貯金）」6.7%、「投信・株式」4.5%、「社内預金」2.4%の順。

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」84.0%、「ゆうちょ（貯金）」6.7%の上位2項目で全体90.7%（昨夏89.2%）を占めており、低金利のなかでも安全性を重視している姿勢が感じられる（図表-7）。

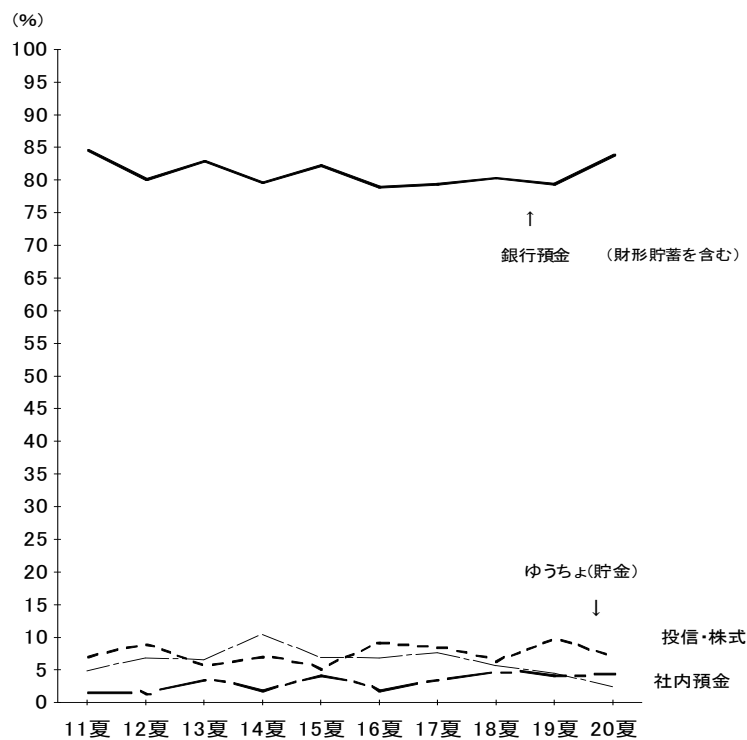
既婚・独身別、男性・女性及び年齢階層別でも、いずれも「銀行預金」の割合が大半を占めている。特に既婚女性（92.6%）、40歳代（84.5%）、50歳以上（85.9%）で高いのが目立つ。「銀行預金」以外では、独身女性の「ゆうちょ」（18.6%）が、やや高めの割合を示す結果となっている。

貯蓄の内訳推移（夏季のみの時系列推移）は、（図表-8）のとおりである。

図表-7 貯蓄の内訳



図表-8 貯蓄の内訳推移



5. 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」。

貯蓄の目的（複数回答）は、1位「老後の備え」39.4%、2位「教育資金」26.5%、3位「旅行・レジャー資金」18.6%、4位「不時の備え」15.0%、「住宅関連資金」15.0%で、以下「車の維持管理」、「耐久消費財」、「結婚資金」と続いた（図表-9）。

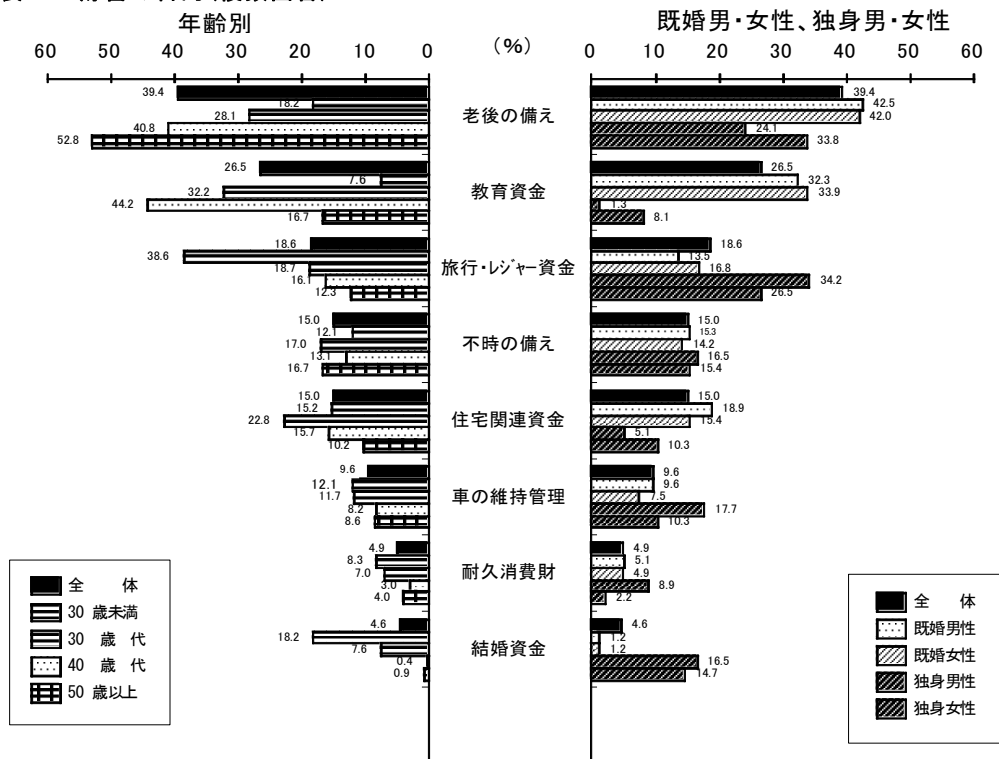
年齢階層別では、30歳未満は「旅行・レジャー資金」（38.6%）、30歳代は「教育資金」（32.2%）、40歳代も「教育資金」（44.2%）、50歳以上は「老後の備え」（52.8%）が高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男性・女性別では、独身男性以外は「老後の備え」をそれぞれトップに挙げ、独身男性は「旅行・レジャー資金」がトップとなっている。

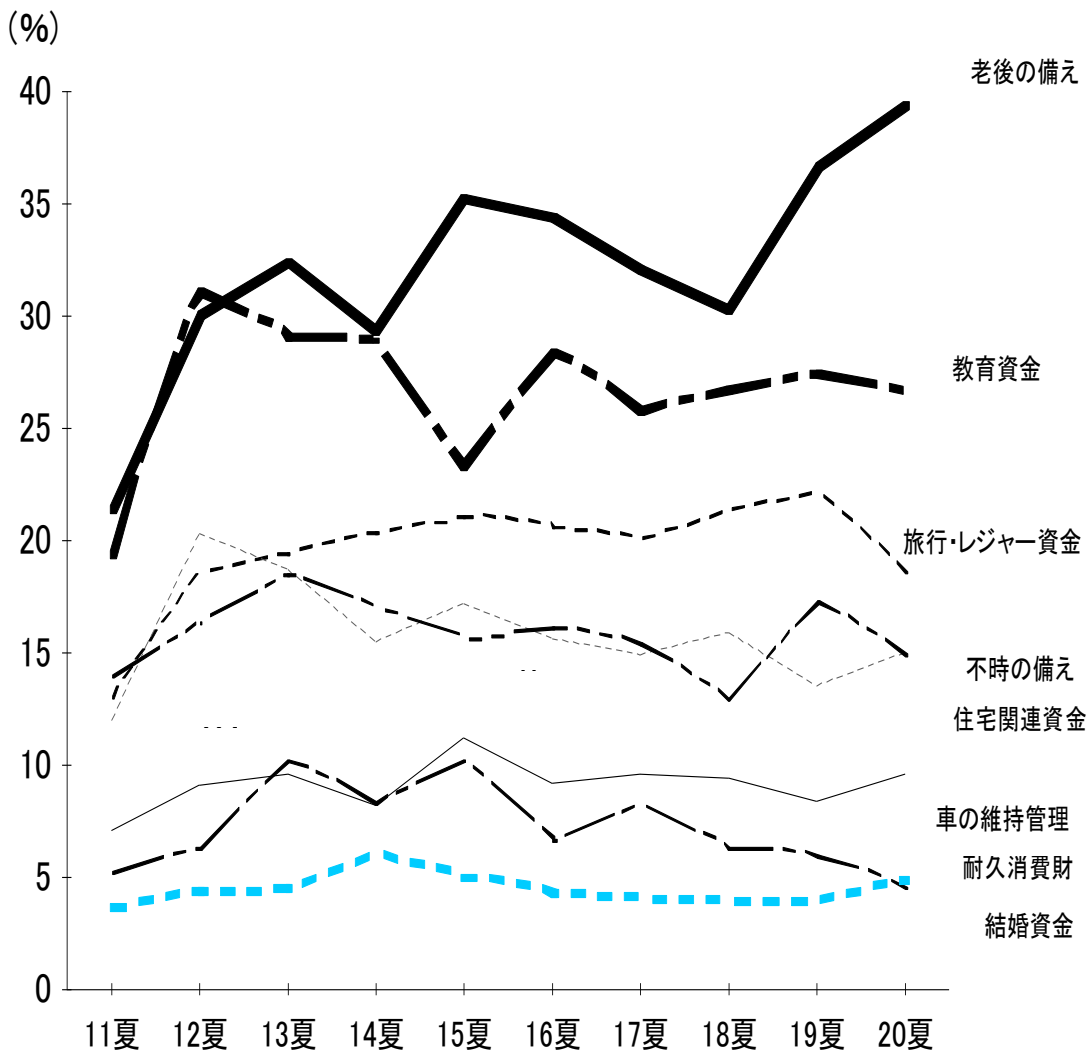
貯蓄の目的の推移（夏季のみの時系列推移）は、（図表-10）のとおりである。

昨夏との増減では「旅行・レジャー資金」（昨夏比▲3.6%ポイント）が目立っており、新型コロナウイルス感染拡大のなか、不要不急の外出を控える動きを反映したようにみられる。

図表-9 貯蓄の目的（複数回答）



図表-10 貯蓄の目的の推移



6. ボーナスで購入したい主要品目

購入希望品目は、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位。

ボーナスで買いたい物（複数回答）は、「婦人服」（17.4%）、「紳士服」（11.9%）、「家具・インテリア」（11.7%）、以下「くつ」、「パソコン」の順となった（図表-11）。

図表-11 購入希望主要品目

	全 体			%	(複数回答、単位:%)			
	18夏	19夏	今夏		既 婚 男 性		既 婚 女 性	
第1位	婦人服	婦人服	婦人服	17.4%	紳士服	19.4	婦人服	23.4
第2位	紳士服	紳士服	紳士服	11.9%	洗濯機	11.5	子供服	14.1
第3位	家具・インテリア	くつ	家具・インテリア	11.7%	家具・インテリア	11.3	家具・インテリア	13.6
第4位	子供服	家具・インテリア	くつ	11.0%	パソコン	9.7	洗濯機	11.7
第5位	くつ	鞆・ハンドバッグ	パソコン	9.2%	乗用車	8.4	化粧品	9.2
第6位	化粧品	化粧品	洗濯機	9.0%				
第7位	鞆・ハンドバッグ	子供服	子供服	8.9%	独 身 男 性		独 身 女 性	
第8位	パソコン	パソコン	鞆・ハンドバッグ	8.5%	紳士服	31.1	婦人服	41.7
第9位	冷蔵庫	テレビ	化粧品	8.2%	アウトドア用品	16.3	化粧品	28.1
第10位	洗濯機	冷蔵庫	乗用車	7.0%	くつ	14.7	くつ	23.3
					パソコン	14.5	鞆・ハンドバッグ	18.4
					家具・インテリア	11.4	家具・インテリア	9.7

7. 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前との比較で収入が「増えた」との回答割合は 11.1%。これに対し、今後半年間の見通しで「増えそう」との回答は 7.8%と、3.3%ポイント低下した。一方「減った」の 17.1%に対し、今後「減りそう」は 37.3%と、20.2%ポイント上昇した。

収入については、新型コロナウイルスの景気への影響が懸念されるなか、先行き慎重な見方が広がりつつあるようにみられる。

(2) 消費支出

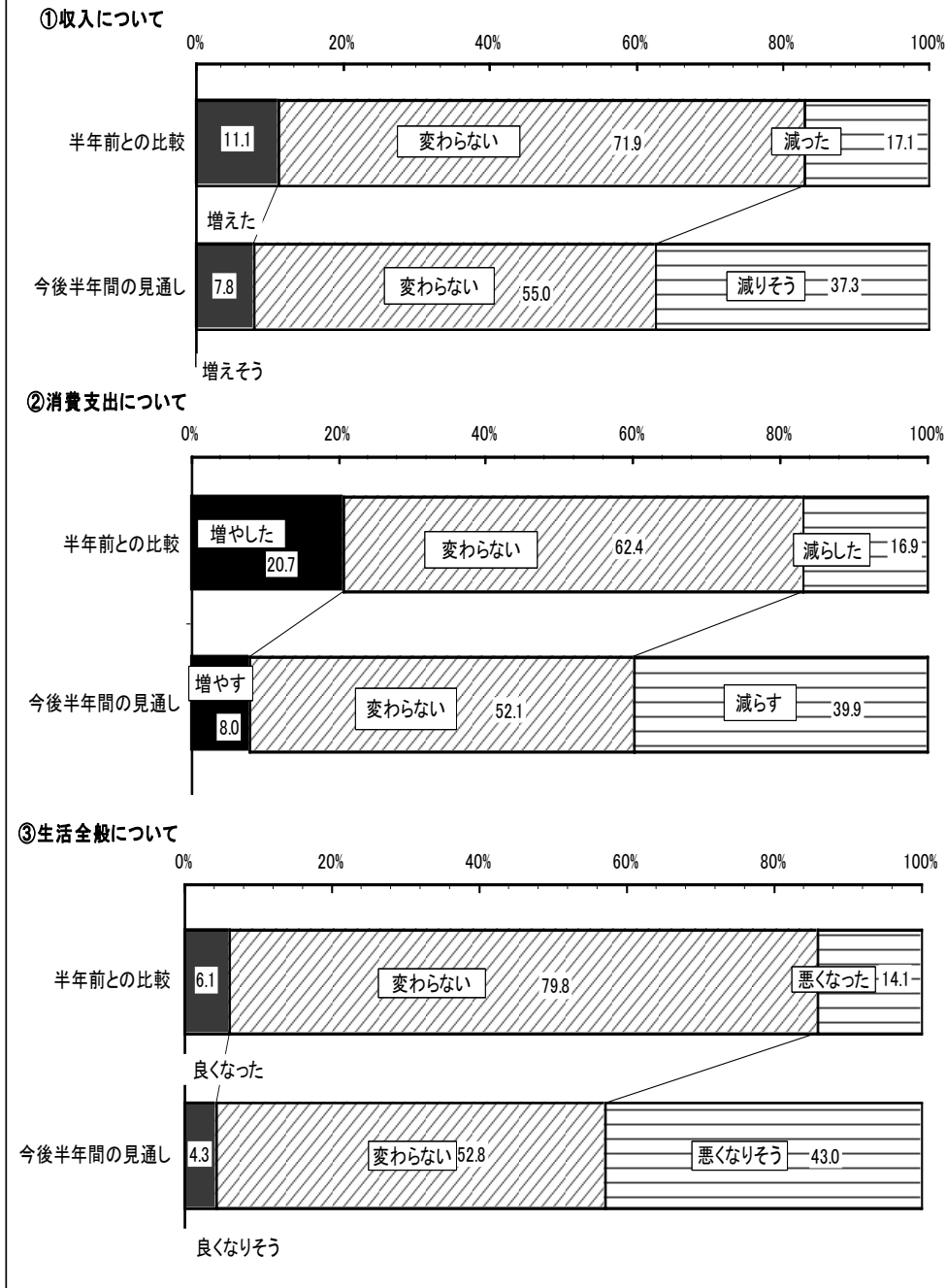
半年前との比較で支出を「増やした」との回答割合は 20.7%。これに対し、今後半年間の見通しで「増やす」とした回答は 8.0%と、12.7%ポイント低下。一方「減らした」の 16.9%に対し、今後「減らす」は 39.9%と、23.0%ポイント上昇した。

消費支出については、消費増税による負担増に加え、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた経済活動の抑制等から、支出を抑制しようとの姿勢がみられる。

(3) 生活全般

暮らし向き（生活全般）については、半年前より「悪くなった」割合（14.1%）が「良くなった」割合（6.1%）を 8.0%ポイント上回った。さらに、今後半年間の見通しについては「悪くなりそう」（43.0%）が「良くなりそう」（4.3%）を 38.7%ポイント上回る結果となった。新型コロナウイルスの感染拡大に、収束に向けた見通しの不透明さも加わって、これまで以上に、先行きに対する慎重な見方が強くなっている（図表-12）。

図表-12 暮らし向きの実感と今後の見通し



回答者の構成

(人)

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	17	59	98	160	334
既婚女性	20	63	136	126	345
独身男性	38	15	12	14	79
独身女性	57	34	21	24	136
計	132	171	267	324	894

アンケート調査実施要領

- | | |
|----------|-------------------------|
| ①方 法 | 千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施 |
| ②実 施 日 | 2020年4月1日～7日 |
| ③対 象 地 域 | 県内全域 |
| ④対 象 人 員 | 1,000人 |
| ⑤有効回答数 | 894人 |
| 有効回答率 | 89.4% |